



スモルニコワ・
バレンチナ

小児科医
チエルノブイリで
臨床医四十五年

児玉龍彦

東京大学アイソトープ総合センター長
福島での現場で動き
発信する医師

鎌田實

諏訪中央病院名誉院長
チエルノブイリ連帯基金代表
日本イラク医療支援ネットワーク代表
白血病や
がんの子ども達のために
働き続ける医師

肥田舜太郎

被爆医師
内部被ばくに
警鐘を鳴らして六十六年

肥田医師 撮影：矢野 桃

まもりたい！ 未来のために

4人の医師が語る経験・広島—チェルノブイリ—イラク—福島



鎌仲ひとみ監督作品

内部被ばくを生き抜く

DVD 上映会

7/25 (水) 一般 500円 高校生以下 無料

10:00 ~ 12:00 市民ふれあい交流センター

19:30 ~ 21:30 津久見市民会館

主催 津久見の海と山といのちを守る母の会 Tel 070-5534-9364(奥田) <http://tsukumi.org/>

●内部被ばくを生き抜く【未知なる危機に備えて…鎌仲ひとみ監督からのメッセージ】

2011年3月に起きた東日本大震災によって原発が4つも爆発してしまった、その後の世界に私たちは生きている。大量の放射性物質が放出され、広範囲に拡散したことは解っているが、ではどれだけ出たのか実は正確な情報がない。放射性物質は環境に溶け込み、生態系に入り込んだ。呼吸や汚染された水・食品を通じて引き起こされる内部被ばくは、この時代に生きる私たち全員の問題となった。これからいったい何が起きるのか、正確に予測できる人は実はいない。ただできることはありとあらゆる情報と可能性を吟味して、「命」を守る努力をするということだ。放射能は様々な局面で「命」の脅威となりえる。私たちは生き抜かねばならない、そのためのささやかな助けになればとこの作品を作った。

肥田 舜太郎

(被爆医師)

内部被ばくに警鐘を鳴らして66年。広島で27歳の時に軍医として原爆に遭う。以来、内部被ばくの実相を追い求めて今年で95歳。戦後、一貫して被爆者医療に尽力し、世界で最も多く被爆者を実際診察してきた実績を持つ。今も請われて日本中で講演を行っている

鎌田 實

(諏訪中央病院名誉院長/チェルノブイリ連帯基金代表/日本イラク医療支援ネットワーク代表)

白血病やがんの子ども達のために働き続ける医師。チェルノブイリへこの20年で94回も医師団を派遣した。2004年からはイラクの白血病やがんの子ども達に特化した医療支援を開始。福島事故を受けて活動を福島へと展開中。

児玉 龍彦

(東京大学アイソトープ総合センター長)

福島の現場で動き発信する医師。ゲノム科学の専門家。福島原発事故の後、国会に参考人として招聘され、政府の対応を厳しく批判したことで注目された。目下、福島の自治体と連携して除染活動を進めつつ、内部被ばくが細胞に与える影響を独自に研究し始めている。

スモルニコワ・バレンチナ

(小児科医)

チェルノブイリで臨床医45年。チェルノブイリ原発から100キロほど離れたゴメリ州で45年間、小児科の臨床医として働いてきた。チェルノブイリ事故の影響を受けた子ども達の医療に献身してきた。

今後の市民セミナー

一緒に学び合おう！

5回 7月31日(火) 参加費無料 19:30～21:30 津久見市民会館

6回 8月1日(水) 参加費無料 10:00～12:00 市民ふれあい交流センター

チェルノブイリ原発事故から26年…

当時現地視察で見てきたもの、そして今秋月初美さん河野近子さんにチェルノブイリ原発事故後に訪問したベラルーシの様子をお話して頂きます。

7回 8月7日(火) 参加費無料
10:00～12:00 市民ふれあい交流センター

8回 19:30～21:30 津久見市民会館

どなたでも
参加できます

ガレキ広域処理の現状と問題点について

池田こみちさんの講演会DVD、がれきをを活かす「森の長城プロジェクト」関連DVD等、を見ながら最新の情報まで共有します。